

# 平成 27 年度 明倫短期大学 福岡医療短期大学との大学間交流活動 「学生 IR 調査」 実施報告書

## 1. 概要

- ・ 日時 : 歯科衛生士学科 3 年次 平成 27 年 9 月 11 日 (金) 9:00~10:00
- ・ 対象学生 : 歯科衛生士学科 3 年次 47 名 [回収率 : 100% (47 名/47 名中)]

## 2. 取組の趣旨

学習支援や教育支援、および教学評価などの教学支援組織を通じ、高等教育の質を保証・向上させる方策の具体化が求められている。そこで今回、学生の学修成果を多面的に評価し、高等教育の質保証システムの創出と教学支援組織のさらなる育成を目指すことを目的として、「学生 IR 調査」を実施した。

## 3. 実施概要

本解析・評価は、A) 全般的な学習状況、B) 課外学習、C) 学生満足度を含めた教育の質保証、の 3 つの観点に基づき行った。

### A) 全般的な学習状況 (専門教育、アクティブラーニングを含む)

#### (1) 専門教育の実践

「相互実習、臨床・臨地実習を通し、学生が体験的に学ぶ経験 (Ⅱ-7-A)」や、「仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ経験 (Ⅱ-7-B)」が「あった」と回答した学生は約 10 割を占めていた。また、教育内容に関する満足度については、「専門教育の授業 (V-21-A)」は約 6 割、「授業と将来の仕事との関連性 (V-21-E)」は約 8 割の学生が「満足」と回答しており、専門教育の授業を理解させる難しさはあるが、専門職業人を育成する教育機関として、学生の目的意識を高める専門教育が実践されていると言える。

#### (2) ライティング、レポート課題

「学生自身が文献や資料を調べる (Ⅱ-7-E)」機会を経験した学生は約 6 割、「定期的な小テストやレポート課題 (Ⅱ-7-F)」を経験した学生は約 8 割、「教員から提出物に添削やコメントをつけて返却される (Ⅱ-7-G)」機会を経験した学生は約 7 割となっており、学習効果を高めるための教員の関与・工夫がされていると言える。

#### (3) アクティブ・ラーニングを通じた学習

学生が「自分の考えや研究を発表する (Ⅱ-7-H)」経験をした学生は約 4 割、「授業中に学生同士で討議をする (Ⅱ-7-I)」経験は約 2 割と低い。技術・技能習得のための演習が主体のため、時間や人的制約もあり、PBL 等の比率が低い結果に繋がっていると考えられる。

## B) 課外学習

「授業課題のために Web 上の情報を利用した (II-8-B)」学生は約 9 割と高い一方、「授業のために図書館の資料を利用した (II-8-A)」学生は約 4 割に満たない結果であった。これは、学生に iPad を貸与し、必要時にネットでの情報収集を可能にしたためと考えられる。

一週間あたりの「授業時間以外に授業課題や準備学習、復習をする (II-9-B)」時間については、「全然ない」や「1 日 1 時間未満」の回答は約 2 割と低く、臨地実習における課題レポートの作成や卒業論文の作成および国家試験対策の課題等が、課外学習時間の確保に繋がっていると考えられる。

## C) 学生満足度を含めた教育の質保証

### (1) 欠席・遅刻数および授業への興味・関心

「授業を欠席した (II-8-G)」、「授業を遅刻した (II-8-H)」と回答した学生は約 3 割と多い反面、「授業をつまらなく感じた (II-8-I)」、「授業中に居眠りをした (II-8-J)」の回答は約 1 割と低い結果であった。これは、専門職業人を育成する養成校であることから、学生自身が早期から目的意識を明確にもっており、自己実現に向け、向上心を持って授業へ取り組んでいる結果と考えられる。また、「授業の全体的な質 (V-21-C)」に対する満足度では、不満があると回答した学生は約 1 割に満たず、教員の教育技術や熱意が、学生の歯科衛生士免許取得を目指した前向きな学習態度の形成に繋がっていると言える。

### (2) 教育の質の保証

入学時点との「専門分野や学科の知識 (II-10-C)」に対し、約 10 割の学生が「増えた」と回答した。また、「学外実習に意欲的に取り組んでいるか (III-12B)」についても、「意欲的でない」と回答した学生は 0 で、3 年間を通じた専門教育の質が保証されていると考えられる。将来の見通しに関する質問では、「将来の見通しを持っており、何をすべきかわかっている (VI-24-1, 2)」学生は約 8 割で、キャリア教育の充実に学生の満足度が高く、質が保証されていると考えられる。

「教員に親近感を感じた (II-8-N)」学生は約 5 割であるが、「大学教員と顔見知りになった (V-19-F)」と感じている学生は約 8 割で、3 年間を通じた「先生と語る会」の取組みやオフィスアワー、成績不振者に対する補習などの学校生活全般に対する支援体制が、学生-教員間の交流を促進し、学生指導に対する満足度に繋がっていると考えられる。

## 4. 取組の意義

今回の「学生 IR 調査」による多面的な学修成果の評価を分析し、課題を可視化することは、今後の教育・研究、学生支援の改善に大いに活用でき、教育の質保証・向上に繋がる取り組みであることが示唆された。

また、平成 27 年 9 月 7 日付で連携協定を締結した福岡医療短期大学との「共同 IR 調査」の取組として実施することで、両短期大学間の交流と教育研究に関する連携協力を進めることができた。